

令和6年7月4日

富士山火山避難図上演習の実施について

(環境市民部危機管理課)

1 概要

令和6年度裾野市地域防災計画別冊2「裾野市富士山火山避難基本計画」の市民に対する周知啓発と実効性を高めるための修正深化を目的として、裾野市自主防災会(86コ)役員、市職員や防災関係機関職員等の災害対策本部要員を一堂に集めて富士山火山避難に関する図上演習を市主催により実施します。

2 訓練概要

	内容等
日時	令和6年7月20日(土) 08:00~12:00
場所	裾野市民文化センター 多目的ホール
参加者等 (約260名) 及び 訓練内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市民等 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 市内自治組織(区)長及び自主防災会長等 約170名 各区特性に応じた避難要領(共助活動等)の具体化 ◇ 十里木別荘管理事務所職員 約5名 昨年12月に実施した噴火前避難実員訓練の確認等 ◇ 地域地震防災指導員 約30名 市内自治組織役員等の助言、演習進行の補助 ◆ 要配慮者利用施設(社会福祉法人富岳会施設長) 1~2名 噴火前避難に関する確認・調整 ◆ 防災関係機関(警察・消防・自衛隊)等 約10名 災害対策本部等の行動(課題事項の検討・調整) ◆ 市職員(特別職、各部・所属長等) 約35名 災害対策本部等の行動(課題事項の検討・調整)及び訓練統制等 ◆ 内閣府職員及び市内支援企業職員 約10名 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 内閣府モデル地区訓練として実施し、支援・協力受け。 ◇ 市内支援企業には、各種 Sim、行政区の細分化・デジタル化の支援受け。
特性等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各自治組織防災の中心となる区長と自主防災会長が一堂に会し、噴火後避難における裾野市が定めた溶岩流の流下「黄瀬川M43ライン」の避難時程に沿って、実際に自分達が居住する地域(区)の避難要領や区としての活動(共助)について、地図・作業用紙を使用して考え・作業し、区の活動を具体化する。(これにより、避難対象地域と人数を絞ることができるとともに、区として策定が必要な地区防災計画の一部を作成することができる。) ※ 今演習に先立ち、行政区の細分化(区内の班・組・Gp等の境界区分)・デジタル化により、行政区ごとに溶岩流流下状況が載った地図や区としての活動を考えていただくための作業用紙(様式)を市内支援企業と連携し、市が準備し、事前配布した。 ◆ 市役所及び防災関係機関等の職員が一堂に会し、避難計画改定上の課題について検討し、対応の方向性等を導き出すとともに、相互の連携強化を図ることができる。 ◆ 内閣府モデル地区訓練として実施し、火山防災エキスパート等の支援受けにより演習内容の充実や演習進行の円滑化を図る。